

令和4年度 帰国・外国人児童生徒等教育の推進支援事業
 (I 帰国・外国人児童生徒等に対するきめ細かな支援事業)
 事業内容報告書の概要

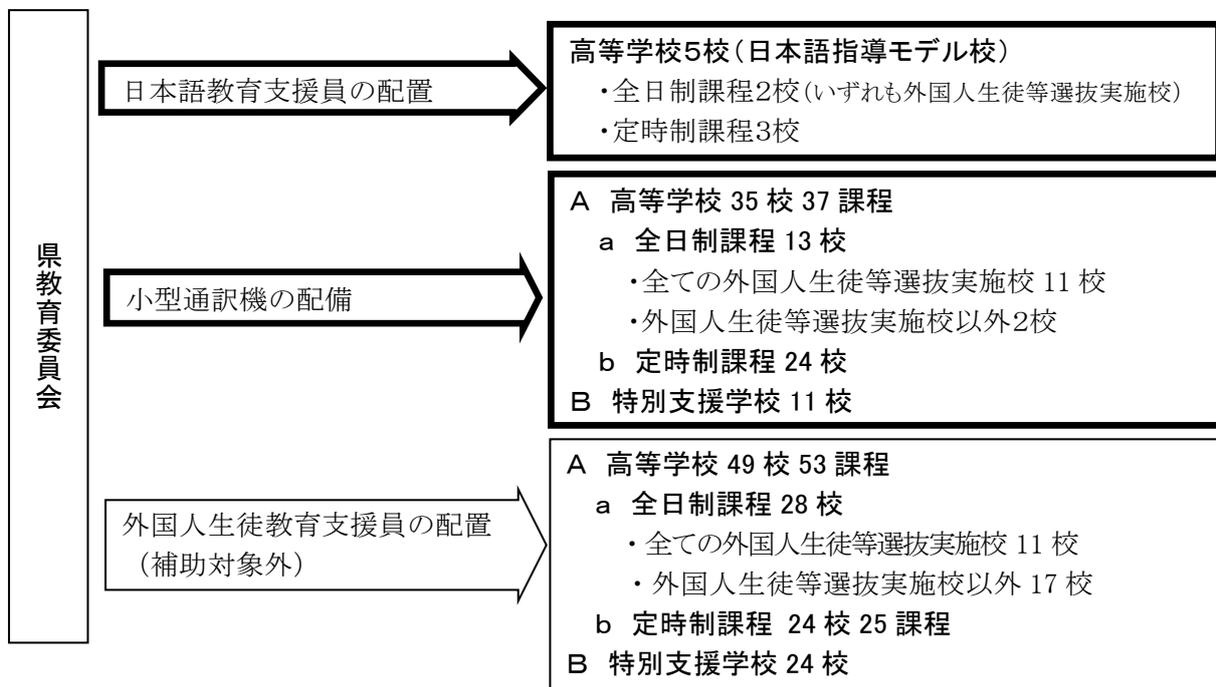
地方公共団体名【 愛知県教育委員会 】

令和4年度に実施した取組の内容及び成果と課題

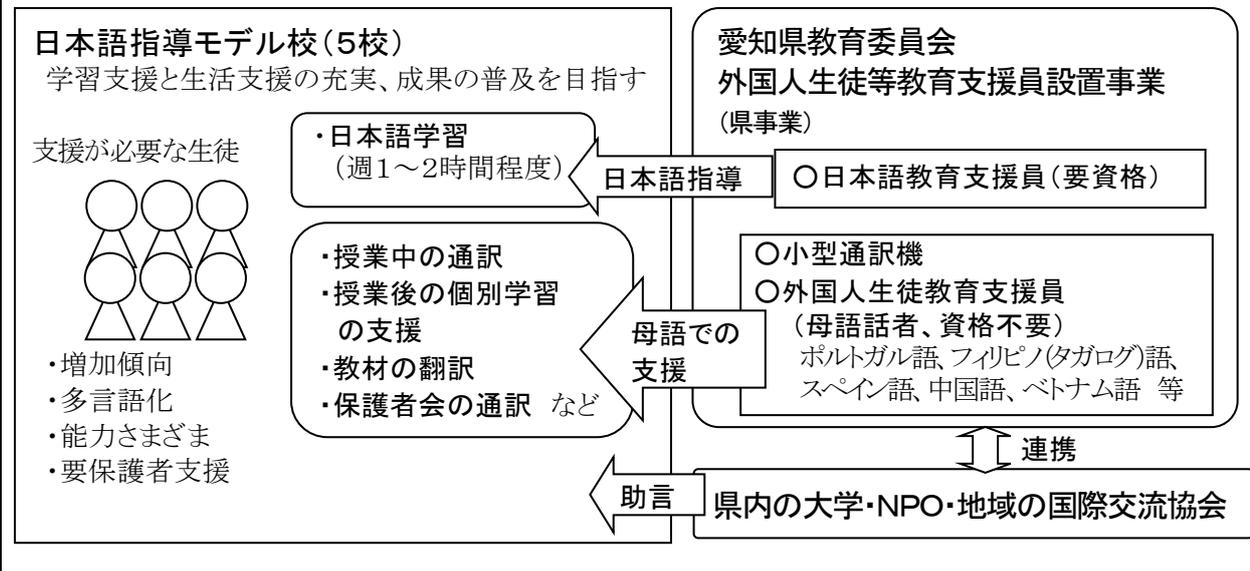
1. 事業の実施体制(運営協議会・連絡協議会の構成員等)

<高等学校教育課・特別支援教育課>

【外国人生徒等教育支援員設置事業(県教育委員会の取組)】※本事業に関わる高等学校を対象とした協議会を開催(10月)。

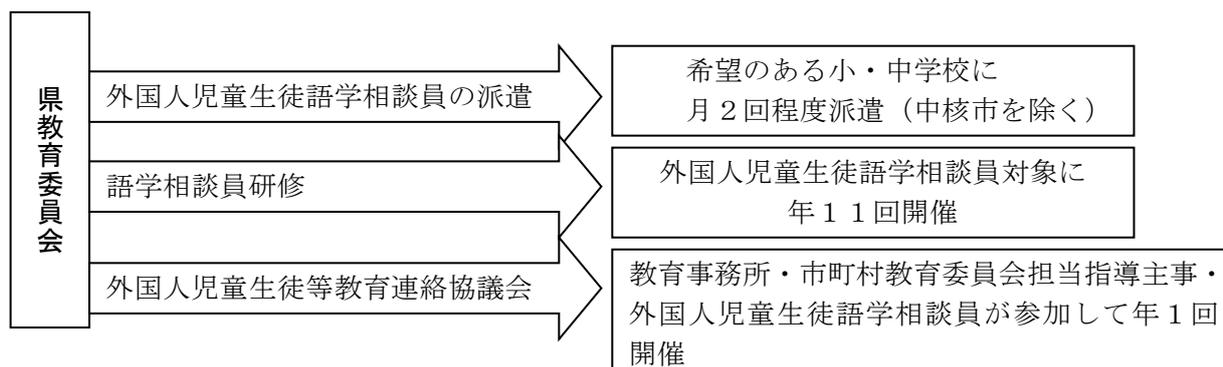


【日本語指導モデル校における取組】



<義務教育課>

【外国人児童生徒教育推進事業】



2. 具体の取組内容 ※取り組んだ実施事項(1)～(13)について、それぞれ記入すること

(1) 地域の外国人児童生徒等指導体制の推進に係る運営協議会・連絡協議会の設置・運営

- ・県立高等学校外国人生徒支援担当教員連絡協議会を10月に開催
- ・外国人児童生徒等教育連絡協議会を7月に開催

(2) 学校における指導体制の構築

- ・県立高等学校外国人生徒支援担当教員連絡協議会を10月に開催
- ・10月25日に実施された「行政改革の推進に向けた外部有識者による公開ヒアリング」の中で、学校における外国人生徒の支援体制の在り方について、外部有識者から意見を聴取
- ・県内の小中学校に、日本語教育適応学級担当教員を加配。
- ・義務教育課主催で、日本語教育適応学級担当教員等研修を年2回オンラインで開催

(3) 「特別な教育課程」による日本語指導の実施

- ・第1回日本語教育適応学級担当教員等研修で、日本語教育適応学級担当教員等を対象に「特別な教育課程」の編成と実施について説明
- ・外国人児童生徒等教育連絡協議会で、教育事務所・市町村教育委員会指導主事を対象に「特別な教育課程」の編成と実施について説明

(4) 成果の普及

- ・県立高等学校外国人生徒支援担当教員連絡協議会での情報共有
- ・教頭会の定時制通信制部会での情報共有
- ・第1回日本語教育適応学級担当教員等研修と外国人児童生徒等教育連絡協議会で、外国人児童生徒語学相談員に係る取組や支援成果の情報共有。

(8) 高校生等に対する包括的な教育・支援

① 高等学校等における日本語指導・教科指導の実施

- ・高等学校5校を日本語指導モデル校とし、日本語教育の専門性を有する日本語教育支援員を7名配置して日本語指導を実施

② 高等学校等に対するキャリア教育や進路指導の充実

- ・県の単独事業として就労アドバイザー3名を定時制高校に配置し、学校や企業をはじめとした関係機関の連携強化や就職先・実習先の開拓、学校や企業への助言を実施（補助対象外）

③ その他、高校生等に対する教育・支援に資する取組

(1) 小型通訳機の配備

- ・全日制高校13校（全ての外国人生徒等選抜実施校11校及び外国人生徒等選抜実施校以外の学校2校）及び定時制高校24校に計37台、特別支援学校11校に15台の小型通訳機を配備し、授業や保護者会等で活用

(2) 外国人生徒等教育支援員の配置

- ・日本語によるコミュニケーション能力が十分に身に付いていない外国人児童生徒の学習または学校生活上の支援を目的に、県の単独事業として外国人生徒等教育支援員を配置(補助対象外)
- ・高等学校では、49校に延べ148人の支援員を配置して、871人の生徒を支援
- ・特別支援学校では、24校に延べ38人の支援員を配置して、144人の生徒を支援

(10) 日本語指導ができる、又は児童生徒等の母語が分かる支援員の派遣

- ・外国人児童生徒等に対する生活指導や教科指導の補助、外国人児童生徒等の保護者との連絡及び通知文等の翻訳業務等を行うため、県内小中学校に外国人児童生徒教育相談員11人を派遣。
- ・小学校163校932人、中学校93校434人を支援

3. 成果と課題 ※取り組んだ実施事項(1)～(13)について、それぞれ記入すること

(1) 地域の外国人児童生徒等指導体制の推進に係る運営協議会・連絡協議会の設置・運営

- ・支援の必要な生徒に対して適切な支援を早期に実施できるよう、例年10月に実施している連絡協議会の開催時期や実施回数について検討する必要がある。
- ・令和5年度から高等学校において「特別の教育課程を編成して行う日本語指導」が制度化される。このことについても連絡協議会を活用して周知を図り、各校の取組につなげていきたい。
- ・外国人児童生徒等への長期的な支援を促進するために、散在地域においても諸機関が連携して取りくむことができる体制づくりが必要である。

(2) 学校における指導体制の構築

- ・支援の必要な生徒に対して適切な支援を早期に実施できるよう、例年10月に実施している連絡協議会の開催時期や実施回数について検討する必要がある。
- ・令和5年度から高等学校において「特別の教育課程を編成して行う日本語指導」が制度化される。このことについても連絡協議会を活用して周知を図り、各校の取組につなげていきたい。
- ・公開ヒアリングで外部の有識者からいただいた「将来の多様化社会に向けて、外国にルーツを持つ子どもたちが一緒に学ぶことにより、プラスの影響を期待する」「外国人教育や相談を行うNPOとの連携を検討すべき」といった意見をどのように具現化していくかが課題である。
- ・日本語教育適応学級担当教員単数加配が多いため、校内で孤立しないための校内体制づくりや他校をはじめ諸機関との連携を促進する必要がある。

(3) 「特別な教育課程」による日本語指導の実施

- ・散在地域の日本語教育適応学級担当教員の加配のない学校では、特別の教育課程の編成と実施がなかなか進まないのが現状である。校内全体で支援をしていく体制づくりを、継続して促進していきたい。

(4) 成果の普及

- ・支援の必要な生徒に対して適切な支援を早期に実施できるよう、例年10月に実施している連絡協議会の開催時期や実施回数について検討する必要がある。
- ・令和5年度から高等学校において「特別の教育課程を編成して行う日本語指導」が制度化される。このことについても連絡協議会を活用して周知を図り、各校の取組につなげていきたい。
- ・「他校の支援の様子がわかって大変参考になった」という声に参加者から聞かれた。先進校のノウハウや優れた取組を他校に広げることにより、支援の必要な生徒に対して適切な支援ができるよう、連絡協議会の内容の更なる充実を図っていきたい。
- ・最近日本語指導が必要な児童生徒が在籍するようになった散在地域の学校では、外国人児童生徒語学相談員の活用が進んでいない場合があったため、様々な場でその活用の周知を徹底していく。

(8) 高校生等に対する包括的な教育・支援

- ・高等学校5校(全日制2校、定時制3校)を日本語指導モデル校とし、日本語教育の専門性を有する日本語教育支援員を7名配置して、143人の生徒を対象に350時間分(1校あたり70時間)の日本語指

導を行った。各学校は、県に提出する日本語指導実施計画書に基づき、全日制では放課後、定時制では始業前の時間帯に週1～2回程度、日本語指導を行った。

- ・就労アドバイザーを3名配置して就職支援を行った(補助対象外)。
- ・高等学校及び特別支援学校に外国人生徒教育支援員を延べ186人配置した(補助対象外)。外国人生徒の増加とともに言語の多様化が進んでおり、いかにして支援員を確保するかが課題である。

(10) 日本語指導ができる、又は児童生徒等の母語が分かる支援員の派遣

- ・母語支援だけではなく、来日して間もない児童生徒の生活適応指導や児童生徒の教育相談等で学校へ適応する支援ができた。
- ・母語による通訳・翻訳を通して保護者との信頼関係を築く支援をすることができた。
- ・児童生徒の母語や母文化に関する情報や進路に関する情報を学校に提供することで、個に応じた対応へとつなげることができた。

	幼稚園等	小学校	中学校	義務教育学校	高等学校	中等教育学校	特別支援学校
本事業で対応した幼児・児童生徒数	人 (園)	931 人 (163校)	457 人 (93校)	人 (校)	770 人 (35校)	人 (校)	100 人 (11校)
うち、特別の教育課程で指導を受けた児童生徒数		757 人 (149校)	293 人 (63校)	人 (校)	0 人 (0校)	人 (校)	0 人 (0校)

4. その他(今後の取組予定等)

- ・令和5年度は、高等学校12校に日本語教育支援員を配置し、日本語教師の資格をもった支援員が日本語指導を行う。うち2校では、特別の教育課程を編成した日本語指導を実施する予定である。
- ・令和5年度は、県立高校に38台、県立特別支援学校に17台の小型通訳機を配備する。
- ・連絡協議会や教頭会等で外国人生徒支援に係る情報を周知・共有する機会を設定し、成果の普及を図る。
- ・令和5年度は、県立高等学校に19,305時間分、県立特別支援学校に1,543時間分の予算を確保し、必要な学校に外国人生徒教育支援員を配置して外国人生徒への支援を行う(補助対象外)。
- ・令和5年度も、県内小中学校に外国人児童生徒教育相談員11人を派遣する。

※ 枠は適宜広げること。(複数ページになっても差し支えない) 成果物等があれば別途提出すること。

※ 事業内容報告書の概要は、担当者・連絡先欄を除き、様式9(添付1)の5. 成果イメージ資料のポンチ絵と併せて、文部科学省ホームページで公開する。